



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2026 October to December vol. 232



特別展

源氏物語

王朝のかがやき

特集展示

茶の湯の道具と次第

新春特集展示

ひつじづくし

— 千支を愛でる —



京都国立博物館

だより

二〇二六年

一〇・一一・一二月号



【特別展】

源氏物語

王朝のかがやき

10月6日(火)～11月29日(日)

【主な展示替】

前期展示：10月6日(火)～11月1日(日)

後期展示：11月3日(火)～11月29日(日)

※期間中、一部の作品は右記以外にも展示替を行います。

【平成知新館】

平安時代に紫式部によって著された、日本文学史を代表する王朝物語『源氏物語』。雅な宮廷を舞台に繰り広げられる光源氏や個性豊かな女性たちの恋愛模様、人生模様は、後世に読み継がれる中でさまざまな文化や美術を生み出しました。本展では、『源氏物語』の場面やモチーフを表した美しい絵画、工芸品に加え、後世につくられた写本や注釈類、さらに芸能への広がりをも紹介し、その多様で豊かな文化をご覧いただきます。当館で『源氏物語』をテーマにした特別展を開催するのは、一九七五年の「源氏物語の美術」展以来、実に半世紀ぶりとなります。

まずご注目いただきたいのは、『源氏物語』の本文を現代に伝えてきた、さまざまな「写本」です。なかでも、歌人・藤原定家(一一六二～一二四一)が校訂・書写を監督した重要な写本「定家本」の現存する全五帖が一堂に会するのは、たいへん貴重な機会です(十一月三日～十五日のみ)。

また、何といっても欠かせないのが、国宝「源氏物語絵巻」でしょう。物語成立の百数十年後に制作された現存最古の源氏絵であり、また数ある絵巻物の中でも最高傑作といわれる名品です。王朝美術の象徴である本絵巻は、二週間ごとに一場面ずつ展示替えしてご覧いただけます。

近世には、源氏絵や意匠が大量に制作されるようになりませんが、土佐光吉(一五三九～一六一三)による細密な重文「源氏物語画帖」、時絵芸術の最高峰である国宝「初音の調度」、俵屋宗達による清新な国宝「源氏物語関屋澤標図屏風」など、選りすぐりの名品がずらりと揃います。

とくに力を入れたのは、京都会場で特集する『源氏物語』と能とのかわりについての展示です。古典文学に取材した能の演目では、『源氏物語』に登場する女性たちの情念は格好の主題となりました。展示会場では、復原能装束を用いて、前期は「葵上」、後期は「玉鬘」が演じられる空間のイメージを再現します。

そのほか、アメリカから里帰りする重要作品も含め、今後なかなか実現できない内容で『源氏物語』から生まれた美術や文化を展覧します。

『源氏物語』が成立してから一千年ほど、読み継がれ、さまざまに造形化されてきた歴史を振り返ると、実はその様相は「王朝文化の象徴」「日本文学の代表」という言葉で片づけられるほど単純ではなかったことがわかります。それぞれの時代の人々は、『源氏物語』の権威を自らのものとしたり、時代の趣味に合わせた新たな解釈や表現を探索したりして、この名作にアプローチしてきたのです。そうした多様性を感じ、『源氏物語』がいかに日本の文化に広範な影響を与えたかを知っていただけると幸いです。

(井並林太郎)



伝統的な源氏絵を大胆にデフォルメした、近世源氏絵の傑作で、唯一の国宝作品。

国宝 源氏物語関屋澤標図屏風(澤標図) 俵屋宗達筆 江戸時代 寛永8年(1631) 東京・静嘉堂文庫美術館(前期展示) (公財) 静嘉堂/DNPartcom



人物は描かずに、雪の鷹狩りや御所車といったモチーフによって『源氏物語』の一場面であることをほのめかす。それらを読み解き味わうこともまた、武家女性のたしなみの一つでした。



国宝 初音蒔絵旅香具箱(初音の調度) 幸阿弥長重作 江戸時代 寛永16年(1639) 愛知・徳川美術館(通期展示) © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



重要文化財 源氏物語画帖 若紫 土佐光吉・長次郎筆 安土桃山～江戸時代 17世紀 京都国立博物館(通期展示、帖替あり<この場面は前期展示>)

徳川家光の長女・千代姫の婚礼調度。絢爛豪華な源氏意匠。



国宝 源氏物語絵巻 宿木三 平安時代 12世紀 愛知・徳川美術館(11月17日～29日展示) © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

薫のライバル・匂宮は、自分の子を身籠る中の君とすれ違う心を、琵琶を弾き慰める。

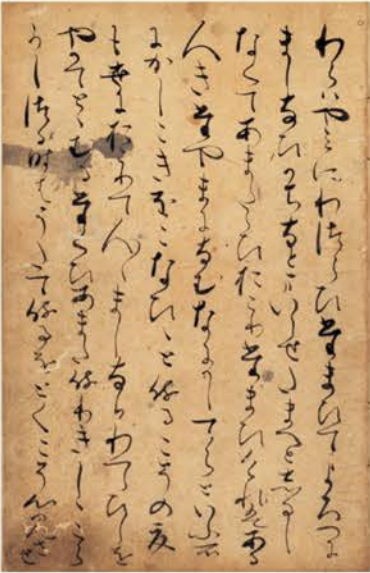
『源氏物語』とは―― 貴族文化が開いた平安時代中期に、藤原道長の娘・彰子に仕えた女房・紫式部によって書かれた長編物語です。主人公の光源氏の苦悩多き一生が、女性たちとの恋愛や宮廷社会の栄枯盛衰の中で、深く繊細な心理、そして美意識とともに格調高く綴られます。全五十四帖のうち最後の十帖は、不義の子・薫を主人公にした光源氏死後の物語で、「宇治十帖」と呼ばれます。「世界最古の長編小説」ともいわれ、古典として読み継がれる名作です。

◆永遠のベストセラー『源氏物語』の作者・紫式部

紫式部は、幼少より文学に親しんだ素養を生かして、藤原道長の娘・彰子に仕えるかたわら『源氏物語』の執筆をすすめて、当時から多くの読者を得ていたようです。その生涯はわからないことも多いですが、彼女の日記が読み継がれ、肖像画が多く描かれてきた歴史は、『源氏物語』の作者としての名声がいつの時代も高かったことを示しています。



宮廷絵師・土佐光起が描いた、もっとも有名な紫式部の肖像。 紫式部像 土佐光起筆 江戸時代 17世紀 滋賀・石山寺(前期展示)



2019年、奇跡の大発見！ 鎌倉時代の歌人で文学研究者でもあった藤原定家が関与した、本文研究上の重要写本。

源氏物語(定家本) 若紫 鎌倉時代 13世紀(通期展示) 画像提供：八木書店

◆『源氏物語』と能

王朝文化を象徴する『源氏物語』は、能が成立した室町時代においても高い人気を誇りました。『源氏物語』に登場する女性たちは、能の世界を表現するためのイメージの源泉となり、「葵上」「野宮」「夕顔」「源氏供養」など、多くの演目が生み出されました。これらは『源氏能』と呼ばれ、今も広く親しまれています。

眼の金彩は超自然的な力を宿す証。光源氏への妄執により生霊となった六条御息所。この高貴な女性が正気を失った様を、源氏能では「泥眼」をつけて演じます。



重要文化財 能面 泥眼 金春家伝来 「天下一河内」焼印 江戸時代 17世紀 東京国立博物館(通期展示)

史上最大規模？

『源氏物語』全文を書写し、多数の絵をつけた『幻の源氏物語絵巻』



宇治の宮の姫君たち(右隻) 松岡映丘筆 大正元年(一九一二年) 兵庫・地路市立美術館(前期展示)

近世源氏絵の金字塔。後陽成天皇をはじめとする宮中が総力を結集して制作。

平成知新館 名品ギャラリー

3F11 陶磁

【日本と東洋のやきもの】

令和9年1月22日(土)～3月22日(月・休)

3F12 考古

【特別公開 和東谷の開拓者 ―原山古墳被葬者の実像―】

令和9年1月22日(土)～3月22日(月・休)

2F11 絵巻

【嘉祿の法難800年】

12月22日(火)～令和9年1月24日(日)

2F12

【特集展示】

茶の湯の 道具と次第

12月22日(火)～令和9年3月22日(月・休)

【平成知新館1F-2】



国宝 大井戸茶碗 銘喜左衛門
京都・孤篷庵



重要文化財 黒楽茶碗 銘ムキ栗
長次郎作 文化庁

茶の湯の道具は、本体だけでなく、それを守り伝えるための箱や仕覆なども含めて大切に受け継がれてきました。こうした本体に付属する一式は「次第」と呼ばれます。次第にはさまざまなものがあります。制作当初から道具に添えられた「共箱」、所有者が変わるたびに誂えられた「仕覆」をはじめ、道具の来歴を今に伝える品々も、本体とともに珍重されてきました。

とりわけ「名物」と呼ばれる茶道具では、仕覆、それを納める箱や挽家、さらにそれらを包む風呂敷に至るまで、道具へたどり着く前から、その質の高さや格調を感じさせます。

次第の一つである箱にも、多様な形式があります。大名や茶人、数寄者たちは、それぞれ独自の好みによる箱を用いており、小堀遠州の「遠州箱」、片桐石州の「石州箱」、金森宗和の「宗和箱」、紀州徳川家の「紀州箱」、雲州松平家の「雲州箱」、藤田家の「藤田箱」、益田鈍翁の「鈍翁箱」など、今日までさまざまな箱が伝えられています。

また、箱以外にも、茶入や茶碗の大きさに合わせて好みの裂で仕立てられた仕覆、来歴や銘を記した書付、所蔵者を示す貼札などが、所有者の変遷に応じて付け加えられてきました。こうした次第をたどることは、一つの茶道具が歩んできた歴史や人々との関わりを知る楽しみでもあります。

本展では、「大井戸茶碗 銘喜左衛門」(国宝、京都・孤篷庵)をはじめとする茶道具の名品とともに、それぞれの「次第」をあわせてご紹介いたします。一つひとつの茶の湯の道具が積み重ねてきた歴史や背景に触れていただく機会となれば幸いです。

(降矢哲男)



仕覆一式



唐物肩衝茶入 銘残月 文化庁

【新春特集展示】

ひつじづくし—干支を愛でる—

12月22日(火)～令和9年2月7日(日)

2F-3 中世絵画

【阿弥派の絵画Ⅰ】

12月22日(火)～令和9年1月24日(日)

2F-4 近世絵画

【画文交響】

12月22日(火)～令和9年2月7日(日)

2F-5 中国絵画

【歳寒三友—理想をうつす松竹梅】

12月22日(火)～令和9年2月7日(日)

1F-1 彫刻

【仏像入門】

12月22日(火)～令和9年3月22日(月・休)

1F-2

【特集展示 茶の湯の道具と次第】

12月22日(火)～令和9年3月22日(月・休)

1F-3 書跡

【『古今和歌集』の古筆】

12月22日(火)～令和9年1月24日(日)

1F-4 染織

【染織を彩る金と銀】

12月22日(火)～令和9年1月31日(日)

1F-5 金工

【茶の湯釜】

12月22日(火)～令和9年2月7日(日)

1F-6 漆工

【「アニマル☆時絵」漆芸にみる動物表現】

12月22日(火)～令和9年2月7日(日)

※3F-1・2は12月22日～27日閉室。

【新春特集展示】

ひつじづくし

―千支を愛でる―

12月22日（火）

令和9年2月7日（日）

【平成知新館2F―2】

令和9年の「千支を愛でる」もファミリー向け！

作品を見るのが楽しくなるワークシート（小学校低学年）

やさしい解説文（小学校高学年）

二〇二七年の千支はヒツジ。ヒツジは、羊毛や羊肉として利用され、世界的にみれば家畜として長い歴史をもつ動物です。しかし、ヒツジは、日本人にとって馴染みの薄い動物でした。というのも、日本にはもともといなかった動物だからです。

弥生時代には、日本にヒツジがいなかったと、中国の歴史書（『魏志倭人伝』）に記されています。中国の人にとっては、驚きだったでしょう。なぜなら、中国では、現在でも、ヒツジは、家畜としてポピュラーな動物だからです。しかし、日本は、山岳が多く、暖かく、湿った気候のため、あのモコモコしたヒツジの飼育には向いていません。ですから、その後も、日本では、ヒツジは、中国からの知識としては知っていましたが、定着せず、幻に近い動物で、ヤギとも混同していました。

では、なぜ日本にいないヒツジをわざわざ表した美術作品が残っているのでしょうか。これは、中国から輸入したものか、日本で中国風を意識して作ったからでしょう。当時の人の中国へのあこがれを感じさせます。

一方、明治時代に入ると、洋服が普及していきませんが、その生地原料として羊毛が必要になってきます。そこで、政府を中心に、国産化ができないか、試みられます。そして、気候などの条件があう北海道などで飼育がはじまりました。

知識としては知っていても、実物に馴染みがなかった日本人が、ヒツジをどのように表現してきたのか、中国の作品とぜひ見比べてみてください。

（大原嘉豊）



花井鳥 獣図巻 (部分) 国井応文・望月玉泉筆 江戸～明治時代 19世紀 京都国立博物館



三羊開泰図 俞奇凡・張聿光筆 中国・中華民国時代 20世紀 須磨弥吉郎氏収 集・須磨末千秋氏寄贈 京都国立博物館



重要文化財 倣梁 楷黄初平図 雪舟筆 室町時代 15世紀 京都国立博物館 (12月22日～令和9年1月17日展示)

よみもの

金銀の風景に遊ぶ

日本工芸の華ともいえる蒔絵は、洗練されたデザインにその魅力がある。文様を大胆な構図で際立たせ、金粉や銀粉をはじめとする多様な素材で飾りたてる。蒔絵に用いる文様は、昆虫などを写実的に描いたものも少なくはないが、その多くは、平面的、抽象的、図形的なものである。器物を装飾するときには、事物のすがたを忠実に写すことよりも、意匠としての美しさが重んじられたのである。しかし、今回は、意匠や文様の美しさとは異なる蒔絵の魅力についてお話ししたい。

国宝「初音の調度」をご存知だろうか。徳川家光が、生まれたばかりの長女のために未来の婚礼の日に向けて作らせた蒔絵の婚礼調度である。將軍の威信をかけ、費用を惜しむことなく、京都随一の蒔絵師に作らせたものだ。この調度に描かれたのは、主に『源氏物語』に取材した風景である。「初音」の帖に取材する一群、「胡蝶」の帖を表す一群、そしてそれとは異なるデザインの数点から成る。いずれも、超一流の腕をもつ御用絵師の下絵が用いられたはずだ。

「初音」の図は、光源氏の住まいである六条院の屋敷を描く。ただし、ところによつては、屋敷の建物が、絵巻物の表現技法である吹抜屋台で描かれる場合がある。また、風景のなかに文字を散らす「葦手絵」という手法も用いられる。物語のなかで詠まれる和歌「年月を松にひかれてふる人に今日うぐひすの初音聞かせよ」が、一部は文字のまま画中に散らされ、一部は絵画的に表わされるのである。要するに「初音」の図に描かれる景色は、映画の撮影セットのように屋根のない部屋があったり、大きな文字がそこそこに貼りついていたりして、違和感があまりに大きく、現代の私たちにとってはその風景に没入することは容易ではないのだ。

京都国立博物館列品管理室長

永島明子

これに対して、六条院の庭園が描かれる「胡蝶」の調度や、各種の香箱（この調度では香道用の香札を入れる箱のこと）には、吹抜屋台もなければ、葦手の文字も散らされていない。特に「名所香箱」「宇治香箱」「古今香箱」「花月香箱」は、天板にこそ箱の名が文字で記されているが、箱の前面から左右の側面へと景色がパノラマのように連続し、箱全体でひとつの空間が描き出されているのだ。

金銀で描かれたその風景をじっとみつめていると、自分自身が景色のなかに入っていくような不思議な感覚を味わうことがある。金と銀の無限のニュアンスで満ちた空間に入りこみ、画中の人となって景色のなかを歩くのだ。金と銀の風景にしばし遊んだあと、ふと顔をあげて辺りを眺めてみると、世界のすべてが金と銀でできているように見えるほどである。

世の中に幾多もある蒔絵のなかで、そのような不思議な感覚をわたしに味わせてくれたものはいくつもない。その数少ない蒔絵のひとつである「宇治香箱」が、今秋の特別展「源氏物語 王朝のかがやき」に並ぶ。宇治川にかかる板橋、そのかわらで柳の枝が水面に垂れ、対岸では水車が回り、早瀬が蛇籠をよけるように勢いよく流れる、波間には柴舟が浮かび、遠くには平等院鳳凰堂が見える。宇治を描くときのお決まりのアイテムばかりだが、それらが実景のように描かれている。徳川家の家紋がはんこを捺したように画面の各所に配されているのは、婚礼調度ゆえのお約束である。宇治の風景に遊ぶあいだだけは、心の中でそっと消していただければ幸いである。

京都会場では「宇治香箱」とともに「初音」の図の書棚や香具箱、「胡蝶」の図の扶箱なども並ぶ。ぜひ会場にて、金銀の風景に身をひたしていただきたい。

「ミュージアムパートナー」 ※令和8年9月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

「ゴールド」土屋 和之

株式会社SOMMZホールディングス

株式会社 俄／一般財団法人ZのZの財団

「シルバー」学校法人 二本松学院

東レエン지니어リング株式会社／伊藤正人

「ブロンズ」原田清朗／片山明／原田佳織

「キャンパスメンバーズ」 ※令和8年9月末現在
「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および教職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会等さまざまな特典を提供しています。

- 学校法人 瓜生山学園／追手門学院大学
- 国立大学法人 大阪大学／大阪大谷大学
- 大谷大学／大手前大学／学校法人 関西大学
- 学校法人 関西学院
- 国立大学法人 京都大学／京都華頂大学
- 国立大学法人 京都工芸繊維大学
- 学校法人 京都産業大学
- 学校法人 京都女子学園／京都市立芸術大学
- 京都精華大学／京都先端科学大学
- 京都橘大学／京都府立大学／近畿大学
- 国立大学法人 神戸大学／四天王寺大学
- 就実大学／成安造形大学
- 国立大学法人 総合研究大学院大学
- 学校法人 大覚寺学園／帝塚山大学
- 学校法人 同志社／奈良大学
- 国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学
- 学校法人 二本松学院／花園大学／佛教大学
- 平安女学院大学／学校法人 森ノ宮医療学園
- 立命館大学／龍谷大学

講座・イベント

《特別展「源氏物語 王朝のかがやき」記念講演会》

10月10日(土)「平安貴族の実像 『源氏物語』を生んだ時代」

国際日本文化研究センター名誉教授 倉本一宏氏

10月24日(土)「中世における『源氏物語』の役割—発信と享受—」

京都国立博物館企画室長兼美術室長 羽田 聡

11月14日(土)「『源氏物語』と能—芸能化された夢と憧れ—」

京都国立博物館調査・国際連携室長 山内麻衣子

11月21日(土)「『源氏物語』の美術—展開と特質—」

京都国立博物館主任研究員 井並林太郎

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし講演会当日の特別展観覧券が必要)。

※参加ご希望の方は、各講演会3日前12時までに京都国立博物館ウェブサイト(<https://www.kyohaku.go.jp/>)よりお申し込みください。事前申し込み制、先着順(定員になり次第受付終了)。

《特別展「源氏物語 王朝のかがやき」開催記念国際シンポジウム》

「『源氏物語』と能—英語翻訳が拓いた物語解釈—」

日時：10月25日(日) 13時～17時

会場：平成知新館 講堂 定員：200名

参加ご希望の方は、京都国立博物館ウェブサイト(<https://www.kyohaku.go.jp/>)よりお申し込みください。10月6日(火)9時より受付開始予定(先着順、定員になり次第受付終了)。

これからの展覧会

◆特集展示 雛まつりと人形

令和9年(2027)2月13日(土)～3月22日(月・休)

◆京都国立博物館開館130周年記念 特別展 大狩野派

令和9年(2027)4月20日(火)～7月19日(月・祝)

第1部 室町～桃山編：4月20日(火)～5月30日(日)

第2部 江戸～明治編：6月8日(火)～7月19日(月・祝)

◆京都国立博物館の庭園を紹介する無料アプリケーション◆ 「京博庭園ナビ」

「京博庭園ナビ」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、京都国立博物館の庭園を楽しんでいただける無料のアプリケーションです。屋外展示や建物など、特定のスポットにカメラをかざすと、解説やARが表示されます。ご来館の際にぜひご利用ください。

利用可能時間：9:30～16:30

料金：無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

※館内ではフリーWi-Fiをご利用いただけます。

※パソコンでは正しく動作しません。

>詳しい利用方法はこちら

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/museum/garden-navi/>

公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X・Instagram

@KyotoNatMuseum

公式キャラクター・トラリンサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>



◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー 休止期間：9月8日(火)～10月4日(日)

12月1日(火)～20日(日)

※上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<9月8日～10月4日>

<12月1日～令和9年3月22日>

9:30～17:00

<10月6日～11月29日> 9:00～17:30

*全曜日は20:00まで開館

*入館は各開館の30分前まで

【観覧料】【庭園のみ開館期間】

<9月8日～10月4日、12月1日～20日>

一般 300円、大学生 150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

【特別展「源氏物語 王朝のかがやき」】

<10月6日～11月29日>

一般 2200円(2000円)、大学生1200円(1000円)

高校生 700円(500円)

* ()内は団体20名以上。中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

【名品ギャラリー】

<12月22日～令和9年3月22日>

一般 700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、12月28日(月)～令和9年1月1日(金・祝)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより86・206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。



*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。

〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和8年10月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

